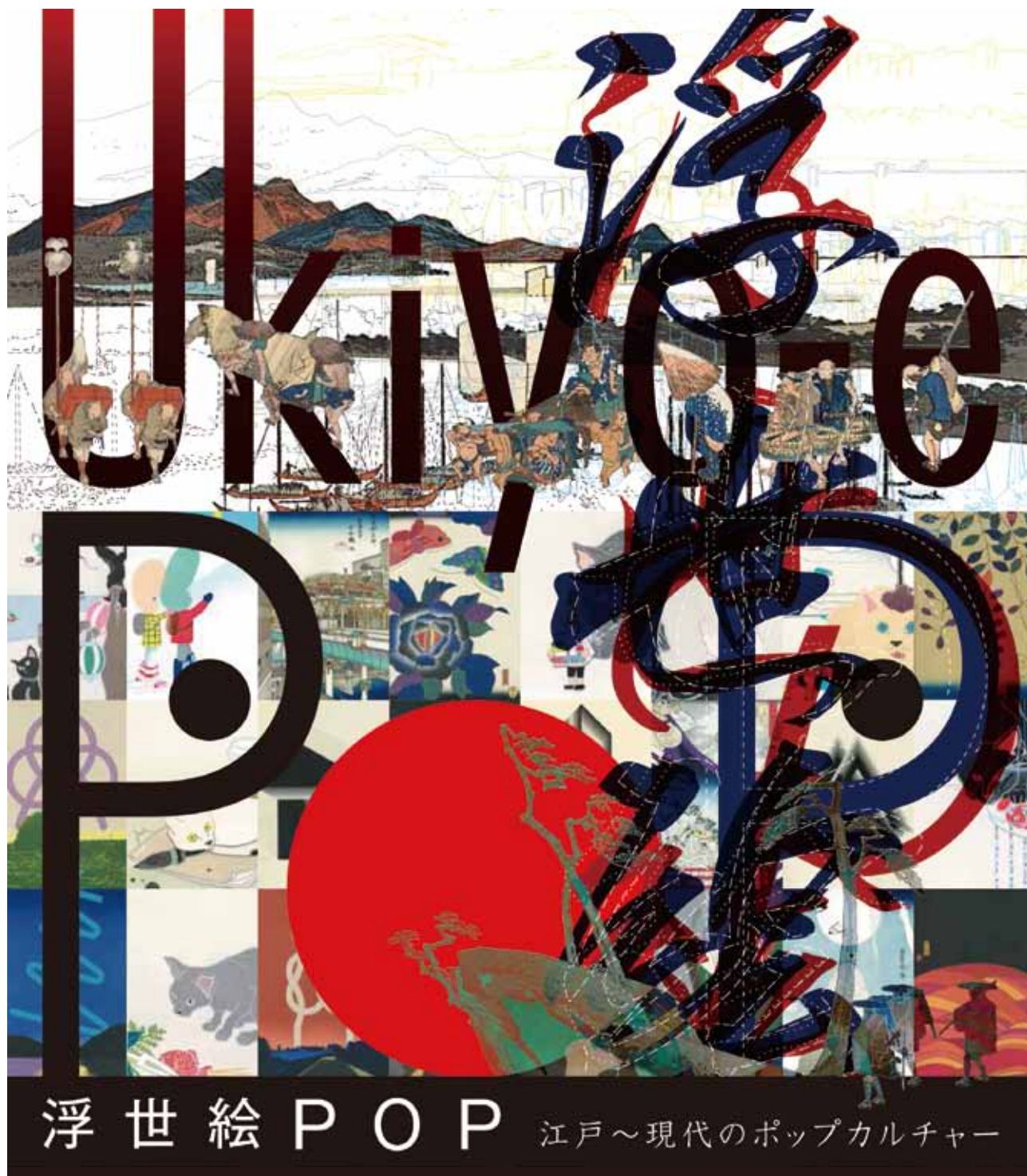




第3回企画展

浮世絵POP 江戸～現代のポップカルチャー

2013年9月18日(水)～11月17日(日)

Part 1 / 2013年9月18日(水)～10月14日 (月/祝)

Part 2 / 2013年10月16日(水)～11月17日 (日)



展覧会名：浮世絵POP 江戸～現代のポップカルチャー

会 期：2013年9月18日(水)～11月17日(日)

Part 1 / 2013年9月18日(水)～10月14日(月/祝)

Part 2 / 2013年10月16日(水)～11月17日(日)

主 催：静岡市東海道広重美術館(指定管理:NPO法人ヘキサプロジェクト)

協 力：(公財) アダチ伝統木版画技術保存財団・版画工房エディション・ワークス・木版館



ポップ・アートとは「大衆向きで、一過性の、消耗品で、安価で、大量生産された、若者向けで、おしゃれで、セクシーで、工夫をこらした、魅力的で、大もうけできるもの」この言葉は、ポップ・アーティストであるリチャード・ハミルトンが書いたポップ・アートの11の定義です。庶民の文化が成熟した江戸時代、これらの条件を備えた浮世絵はもしかしたら日本のポップカルチャーの先駆者だったのかもしれませんが。そして、浮世絵は、西欧に「ジャポニズム」と呼ばれるムーブメントを巻き起こし、モネやゴッホをはじめとする海外の芸術家に大きな影響を与えました。

そこで本展では、当館所蔵の歌川広重の代表作『東海道五拾三次之内』(保永堂版)、世界に数点しかないと言われる『中津川』(通称 雨の中津川)を含む『木曾海道六拾九次之内』を中心に126点を展示します。併せて、日本を代表するグラフィックデザイナー 田中一光や栗津 潔、現代アーティストの山口晃、ミヤケマイ、山口藍などによる現代木版画を紹介しながら、伝統木版の新たな可能性を探ります。現代に息づく江戸の町人文化や大衆性と重なるポップでグラフィックな要素をお楽しみください。

◎出品作品

※ 展示内容及び出展作品は都合により変更となる場合がございます。

歌川広重	Part.1 『木曾海道六拾九次之内』日本橋～大津 全71枚 Part.2 『東海道五拾参次之内』日本橋～京都 全55枚
現代木版画	田中一光 『ロープ』シリーズ 6点 栗津潔 『花札想 I』シリーズ 6点 勝井三雄 『鎖された形態 II』シリーズ 6点 暖嘔 『富士噴火 凱風快晴』 ミヤケマイ 『七日の猫 -Seven Tales of A Cat』シリーズ 7点 山口晃 『新東都名所 東海道中 日本橋改』1点 山口藍 『けぬる』1点 Peter McDonald 『Over There』1点 STIK 『おんぶ』1点(新作・Part2より展示) Jed Henry 『浮世絵ヒーロー』シリーズ 13点(木版作品 5点、プリント作品 8点) 志世都りも 『ビッグ・マウンテン・ソパ・ヌードル』1点 福田美蘭 『2012年の雪中花』1点 吉田潤 『小さな世界』1点

■ 作品紹介：歌川広重作品

歌川広重『木曾海道六拾九次之内』[Part1]

東海道と並ぶ二大街道のひとつ「中山道（なかせんどう）」は、木曾路を抜けるため別称「木曾街道」と呼ばれていました。「木曾海道六拾九次之内」は、その街道筋の風景を溪斎英泉と歌川広重が描いたシリーズです。明るい画風の「東海道五拾三次之内」と対照的に、月の景色などしみじみとした作品が多いのが特徴です。



中津川（雨の中津川）

通称「雨の中津川」と呼ばれるこの作品は、世界に数点しかないと言われ、そのうちの1点が当館に所蔵されています。空一面を覆う黒いぼかしが、どんよりと重い雨の景を表現しています。後に制作された、晴れの景色を描いた同名の『中津川』は、大量に制作されました。



洗馬



大井

歌川広重『東海道五拾三次之内』（通称：保永堂版）[Part2]

「名所絵師・広重」の名を一躍広めた大出世作が「東海道五拾三次之内（通称・保永堂版）」です。広重三十七歳のときに制作されたこのシリーズは、四季や気象の変化を巧みに織り込んだ街道や宿場の風景描写が評判を呼び、人気を博しました。東海道にある五十三の宿場に、出発地点である日本橋と到着地である京都を加えた全55作品の揃いです。



由井 薩埵嶺

当館のある由比に位置する「薩埵峠（さったとうげ）」は、富士を望む景勝地としても知られ、今でも広重が描いた風景とほぼ同じ景色を望む事ができます。この作品は『東海道五拾三次之内』の中で最も売れた一枚とも言われています。



日本橋 朝之景



蒲原 夜之雪

■ 作品紹介：現代作品

日本古来の文化伝統を現代にアレンジすることで、「今」の感性を表現し、新たな価値を創造するアーティストたち。
今も生き続ける伝統木版の技術を活かした現代作家の木版画を紹介します。



田中一光『ロープ 路』
アダチ版画研究所 発行



勝井三雄『鎖された形態II 杏(tou)』
アダチ版画研究所 発行



栗津潔『花札想 I 三月』
アダチ版画研究所 発行



◀ ミヤケマイ
『七日の猫 -Seven Tales of A Cat-』
アダチ版画研究所 発行

江戸の浮世絵にも良く描かれてきた「節句」を現代的視点で描いた作品。節句と言え、人日(1月7日)・桃の節句(3月3日)・端午の節句(5月5日)・七夕(7月7日)・重陽の節句(9月9日)の五節句ですが、この作品は、現代の我々にとって欠かせないお花見とクリスマスを加えた新七節句です。

山口晃 ▶
『新東都名所 東海中 日本橋 改』
アダチ版画研究所 発行

現在の日本橋と首都高速の上に、広重の浮世絵を彷彿とさせる太鼓橋が架かっています。太鼓橋の下部は栈敷のような構造になっており、人々が眺望を楽しむ光景が広がっています。過去・現在・未来を混在させた懐かしも新しい日本橋図です。東海道の起点であり、古今の歴史を通じ、あらゆる文物の集う街であり続ける日本橋を描いた現代の浮世絵です。



■ 出展作家 プロフィール 1

田中一光 Ikko Tanaka

20世紀の日本グラフィックデザイン界を代表するデザイナーのひとり。東京オリンピックでは施設シンボルとメダルデザインを、大阪万博では展示設計を手掛ける。また20年に渡り、無印良品初代アートディレクターを務めた。作風は浮世絵などの伝統芸能に大きな影響を受けている。

【主な受賞歴】

ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ銀賞、毎日デザイン賞、ニューヨークADC殿堂入り、紫綬褒章受章、東京ADC会員最高賞、文化功労者顕彰、第一回亀倉賞



田中一光『ロープ 路』
アダチ版画研究所 発行／1979年

栗津 潔 Kiyoshi Awazu

グラフィックデザイナーとして第一線で活躍する傍ら、建築・音楽・文学・映像など様々なジャンルを超えたアーティストらと共に都市設計・博覧会設計・映画制作などを行い、その活動・作品歴、及び発表は多岐に渡る。1960年メタボリズムグループに参加。「エンパイラメントの会」にも関わる。

【主な受賞歴】

ワルシャワ国際ポスタービエンナーレ銀賞・特別賞、日宣美賞、日本映画アカデミー最優秀美術賞、毎日デザイン賞・特別賞、紫綬褒章受章



栗津潔『花札想 I 三月』
アダチ版画研究所 発行／1979年

勝井三雄 Mitsuo Katsui

1931年生まれ。味の素株式会社を経て1961年勝井デザイン事務所設立。大阪万博以来、沖縄海洋博、つくば科学万博など数々の万博ADを手掛ける。JAGDA会長、東京ADC会員、AGI会員、NY ADC会員、武蔵野美術大学名誉教授などを歴任。

【主な受賞歴】

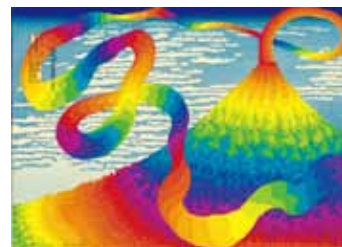
ニューヨークADC金賞、東京ADC原弘賞、日宣美賞、紫綬褒章受章、毎日デザイン賞、講談社出版文化賞、芸術選奨文部大臣賞



勝井三雄『鎖された形態II 杏 (tou)』
アダチ版画研究所 発行／1979年

暖嘯 Ay-O

1950年代、池田満寿夫らと共にデモクラート美術家協会に参加したのち、1958年に渡米。その後、1960年代を代表する、前衛芸術運動フルクサスのメンバーとしてオノ・ヨーコらと共に活動。1964年に出品したヴェネチア・ビエンナーレで「虹のアーティスト」として世界的な名声を得る。



暖嘯『富士噴火 凱風快晴』
アダチ版画研究所 発行／1982年

ミヤケマイ Mai Miyake

独学にて2001年より作家活動を開始。日本独自の感覚に立脚しながら、展示される空間を活かし、繊細かつ大胆に作品を展開している。画廊や美術館、アートフェアでの展示のみならず、企業とのコラボレーション(JAL、銀座メゾンエルメス、高島屋、森アーツセンター)、本の装丁など活動は多岐にわたる。2008-9年、奨学金を得て、Ecole Nationale Supérieure des Beaux-Arts (パリ国立美術大学大学院)に留学。



ミヤケマイ『七日の猫 卯月』
アダチ版画研究所 発行／2012年

山口晃 Akira Yamaguchi

01年第4回岡本太郎記念現代芸術大賞優秀賞。古今東西の様々な事象や風俗を卓越した画力によって画面狭しと描き込んだ都市鳥瞰図・合戦図などが代表作。観客を飽きさせないユーモアとシニカルさを織り交ぜた作風、また人間を含めた動植物と機械などの無機物を融合させた表現も特徴的である。絵画のみならず立体、漫画、インスタレーションなど表現方法は多岐にわたる。



山口晃
『新東都名所 東海道中 日本橋 改』
アダチ版画研究所 発行／2012年

■ 出展作家 プロフィール 2

山口 藍 Ai Yamaguchi

「とうげのお茶や」で遊女として暮らす少女たちを、独特の支持体を用い、繊細かつしなやかな描線で表現。少女に幾つもの意味やイメージを重ねあわせて描かれた作品世界は、奥行きのある情景や余韻を感じさせる。江戸時代の文化や風俗を下敷きに、琳派など様々な日本の美を継承しつつ、新たな“美人画”を創造している。国内に留まらず、活動の場を海外にも広げ多くの注目を集めている。



山口藍「けぬる」
版画工房 エディション・ワークス
© ai yamaguchi・ninyu works/2010年

スティック STIK

東ロンドンのストリートアーティスト。2011年に開催し、作品が全て完売した4つの個展を経て、国際的ファン層を獲得した。2012年4月にロンドン市内のギャラリーで開催された個展"Walk"の作品は10分以内に完売となる。ホームレス経験があることから、ボリシーとして社会活動を大切にしており、UKやヨルダンで子どもに向けたワークショップを始め、国内外で活躍している。STIKのペインティングは、東ロンドン地域のストリートアートツアーの見所の一つとなっている。



STIK「おんぶ」新作イメージ/
2013年

ジェド・ヘンリー Jed Henry

ジェド・ヘンリーは、イラストレーター、一生涯のゲーマー、親日家、そしてあらゆることに関して“おたく”。ゲームのマニュアルからアートを模写して育ち、後にアニメーションの学位を修得するに至る。子ども向け書籍のイラストを手がける傍ら、『浮世絵ヒーロー』のような斬新なプロジェクトを考え出す。東京で2年間を過ごした経験を持ち、現在は、制作、家族と過ごすこと、そして日本へ戻りたいという思いを馳せることに、時間を分けている。



Jed Henry
『浮世絵ヒーロー 人力カートレース』
木版館 制作/2012年

ピーター・マクドナルド Peter McDonald

2008年イギリスのジョン・ムーア絵画賞大賞を受賞。2011年には金沢21世紀美術館で一年にわたる長期プロジェクト型の個展を開催するなど、近年世界から注目を集めているイギリス在住の若手アーティスト。絵を描くということをパフォーマンス行為と捉え、2002年頃より頭の大きな人物を描き始める。以降、この人物像を表現の核とし、空港、学校、床屋、カフェという日常の一場面などを、簡略化された図像とカラフルな色使いで表現。



Peter McDonald『Over There』
アダチ伝統木版画技術保存財団制作
(平成24年度 進呈作品)/2012年

志世都りも Rimo Shiyotsu

1981年より絵師・志世都りもとして作家活動を開始。1991年から2011年まで日本画家・森燐として作家活動を行う。身近で親近感の持てるモチーフを用い、個性的な視点でシュールな世界を表現する。第2回『アダチUKIYOE大賞』大賞、第5回『トリエンナーレ豊橋』星野真吾賞展入選、『損保ジャパン美術賞FACE2013』審査員特別賞。



志世都りも『ビッグ・マウンテン・ソパ・ヌードル』
アダチ伝統木版画技術保存財団制作
(第2回アダチUKIYOE大賞・大賞作品)
2012年

福田美蘭 Miran Fukuda

さまざまなメディアや複製技術の氾濫する現代における美術に対して洞察の目を向ける作品を制作。また近年は、新聞への挿絵を数多く手がける。2013年東京都美術館にて個展開催。『安井賞』、『インド・トリエンナーレ』金賞、『現代日本美術展』群馬県立近代美術館賞、『VOCA賞』、『フィリップ・モリス・アートアワード1996』優秀賞。



福田美蘭『2012年の雪月花』
アダチ伝統木版画技術保存財団制作
(第3回アダチUKIYOE大賞・大賞作品)
2013年

■ 出展作家 プロフィール 3

吉田 潤 Jun Yoshida

木版画や日本画の技法を駆使し、未来への視線と伝統的な技法を、確かな技術で融合させ作品を生み出している。東京や大阪だけでなく、上海や台湾で展覧会を行うなど、国内外で積極的に活動を行っている。
東京藝術大学美術学部絵画科 油彩・版画教育研究助手。
第1回『アダチUKIYOE大賞』大賞。



吉田潤 『小さな世界』
アダチ伝統木版画技術保存財団制作
(第1回アダチUKIYOE大賞・大賞作品)
2011年

■ 協力

(公財) アダチ伝統木版画技術保存財団

The Adachi Foundation for the Preservation of Woodcut Printing

(公財) アダチ伝統木版画技術保存財団は、浮世絵制作の技術を高度に継承した職人のかかえる日本で唯一の版元。江戸時代より浮世絵を通じて培われた伝統木版の技術を保存・継承するために、技術者の育成などを中心に様々な事業を展開する。浮世絵版画の復刻をはじめ、源氏物語絵巻に代表される大和絵、日本画巨匠の木版画作品、現代アーティストの作品等数多くの作品を発表し続けている。

<http://www.adachi-hanga.com/foundation/>

版画工房 エディション・ワークス

Edition Works

エディション・ワークスは、1984年東京に設立された版画工房。エッチング、リトグラフ、シルクスクリーン、木版画、デジタルプリントと、伝統的技法からデジタル表現まで、幅広い技法で制作。現代美術の作家を中心に、版画やマルチプル作品を企画制作する、版元としての活動にも力を入れている。

<http://www.editionworks.jp>

木版館

Mokuhankan

木版館は、イギリス生まれのカナダ人デービッド・ブルによる木版画制作工房。勝川春章『百人一首』全作品などの復刻制作の他、伝統木版画家としても制作を行い、それらの活動をウェブサイトを通じ紹介している。伝統技術を次の世代に伝えてゆくと共に、世界の若い世代に木版画の美しさ、素晴らしさをアピールしていく作品作りを目指している。

<http://mokuhankan.com/jp/>

■ 関連企画 - 1

(公財) アダチ伝統木版画技術保存財団
浮世絵デモンストレーション&ワークショップ

版元として江戸時代の技法を今に継承するアダチ伝統木版画技術保存財団による、浮世絵版画の実演と体験ワークショップ

[日 時] 10月20日(日) 午前の部／11:00 - 12:30、午後の部／13:30 - 15:00 (由比街道まつり当日)

[講 師] 公益財団法人 アダチ伝統木版画技術保存財団

[参 加 費] 無料 ※入館料別途

[定 員] 体験：各 15名(事前申込み / 先着順 ※定員になり次第受付を終了します)



実演・体験作品 歌川広重
『東海道五拾三次之内 由井 薩埵嶺』



実演・体験の様子(2013年／由比桜えびまつり)



■ 関連企画 - 2

タイモン・スクリーチ

第3回 江戸文化セミナー『日本とイギリス』(シリーズ全3回／日本語での講演)

今から約400年前、イギリスから一艘の船(グローブ号)が日本に到着。国王ジェームズ一世の親書と献上品を手に、船のリーダー、ジョン・サリーは、ウィリアム・アダムス(三浦按針)と共に、徳川家康に会うため駿府城を目指しました。本講演では、日本とイギリス 交流400年の歴史を振り返ります。

[日 時] 11月3日(日) 13:00～14:30

[講 師] タイモン・スクリーチ
(ロンドン大学アジア・アフリカ研究所(SOAS)教授。日本近世文化・美術専攻。)

[参 加 費] 無料 ※入館料別途

[定 員] 35名(事前申込み / 先着順 ※定員になり次第受付を終了します)



上記関連企画のお申込み・お問い合わせは、下記にて承ります

[電話でのお申込み] 054-375-4454(代)

[インターネットからの申込み] <https://tokaido-hiroshige.jp/inquiry/>



■ 関連企画 - 3

学芸員によるギャラリートーク

[日 時] Part1『木曾海道六拾九次之内』 9月21日(土) 13:00～13:30

Part2『東海道五拾三次之内』(保永堂版) 10月19日(土) 13:00～13:30

[参 加 費] 無料 ※入館料別途

当日当館エントランスホールにお集まり下さい。(申込み不要・定員制限無)

美術館ボランティアによる展示ガイドを開催しています。[毎週 土・日曜日]

美術館ボランティアが、浮世絵作品を中心に作品解説を行います。

ご希望の方は 開催曜日にエントランスホールにお集まりください。

※ 都合により開催が無い週もございます。詳細は当日エントランスホールの案内をご覧ください。

開 館 時 間： 午前9時～午後5時(入館は閉館の30分前まで)

休 館 日： 毎週月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)

入 館 料： 一般500円(400円)／大学生・高校生300円(240円)

※中学生以下及び静岡市在住の70才以上の方は無料 ※()は20名以上の団体料金 ※身体障害手帳等をご持参の方及び介助者は無料

主 催： 静岡市東海道広重美術館 (指定管理者:NPO法人 ヘキサプロジェクト)

協 力： (公財) アダチ伝統木版画技術保存財団・版画工房エディション・ワークス・木版館

静岡市東海道広重美術館
SHIZUOKA TOKAIDO HIROSHIGE MUSEUM OF ART

〒421-3103 静岡県静岡市清水区由比297-1

Tel 054-375-4454 / Fax 054-375-5321

[URL] www.tokaido-hiroshige.jp[facebook] www.facebook.com/tokaido.hiroshige

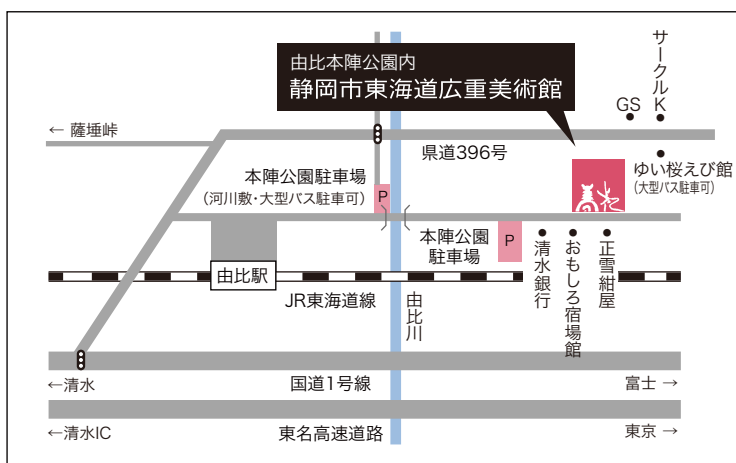
〈電車をご利用の場合〉

JR東海道本線「由比」駅下車後 徒歩25分、タクシー5分

〈お車をご利用の場合〉

美術館駐車場 21台(由比本陣公園駐車場)

東名高速清水ICから国道1号経由約20分



本展覧会及びプレスリリースに関するお問い合わせ

静岡市東海道広重美術館 Tel 054-375-4454 / Fax 054-375-5321 pr@tokaido-hiroshige.jp

■ 広報用画像提供のご案内

展覧会広報用として下記6点のデジタルデータをご用意しております。ご希望の場合はメールまたはファックスにてお申し込みください。

1



2



3



4



5



6



■ 作品名 および クレジット

1. 歌川広重 『木曾海道六拾九次之内 中津川』 静岡市東海道広重美術館 蔵
2. 歌川広重 『東海道五拾三次之内 由井 薩埵嶺』 静岡市東海道広重美術館 蔵
3. 粟津 潔 『花札想 I 三月』 アダチ版画研究所 発行
4. 山口 晃 『新東都名所 東海道中 日本橋 改』 アダチ版画研究所 発行
5. ミヤケマイ 『七日の猫 - Seven Tales of A Cat -』 アダチ版画研究所 発行
6. 展覧会ポスターイメージ

<使用条件>

※作品写真の使用目的は、本展のご紹介のみとさせていただきます。なお、本展覧会終了後の使用はできませんのでご了承ください。

※ご使用の際には、画像のトリミングや、別の画像との合成、文字乗せ等とは遠慮ください。

※各画像のキャプション及びクレジットを明記の上、ご使用ください。

※ご使用の際には、お手数ですが校正紙をEメール添付にて担当までお送り下さい。

※弊館での広報実績資料とさせていただくため、後日、掲載誌(紙)、URL、番組収録のDVD、CDなどお送りいただければ幸いです。



第3回企画展 『浮世絵POP 江戸～現代のポップカルチャー』

広報用画像データ申込書

静岡市東海道広重美術館 行

Fax. 054-375-5321 E-mail. pr@tokaido-hiroshige.jp

■ご希望の作品番号にチェックをつけてください

- ☐ 1. 歌川広重 『木曾海道六拾九次之内 中津川』
- ☐ 2. 歌川広重 『東海道五拾三次之内 由井 薩埵嶺』
- ☐ 3. 栗津 潔 『花札想 I 三月』
- ☐ 4. 山口 晃 『新東都名所 東海道中 日本橋 改』
- ☐ 5. ミヤケマイ 『七日の猫 -Seven Tales of A Cat-』
- ☐ 6. 展覧会ポスターイメージ

貴社名:

媒体名:

ご担当者名:

TEL :

FAX :

E-mail :

画像到着希望日:

月

日

時頃

※ 指定可能時間 10:00～16:00

掲載予定日(コーナー名):

月

日

本プログラムをご紹介いただく際は、ご連絡をお願いいたします。

Tel 054-375-4454 / Fax 054-375-5321 pr@tokaido-hiroshige.jp